

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470600915
法人名	特定非営利活動法人 うえん会
事業所名	グループホーム 銀の鈴
訪問調査日	平成20年9月6日
評価確定日	平成20年10月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1470600915
法人名	特定非営利活動法人 うえん会
事業所名	グループホーム 銀の鈴
所在地	240-0035 横浜市保土ヶ谷区今井町880 (電話) 045-355-3255

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F
訪問調査日	平成20年9月6日
評価確定日	平成20年10月31日

【情報提供票より】(平成20年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年10月1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	18 人
常勤	12 人
非常勤	6 人
常勤換算	14.7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 地下1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(405,000 円)	無(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8 月 20 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 81.3 歳	最低	71 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	南六ッ川クリニック、木曾団地歯科往診部
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームはJR保土ヶ谷駅からバスで20分位のところにある。建物は3階建てでBFが玄関、エントランスロビー、事務室、職員の休憩室となっており、1F、2Fに2ユニットのグループホームが展開されている。経営は、得た縁(えん)が有る(う)を名前の由来としたNPO法人うえん会である。H16.9.6に自発的に結成された家族会は統括責任者を公私共にバックアップしてくれており、家族との絆が太いことがこのホームの最大の財産である。建物所有者は地元の人であり、地域との友好的な関係は強い。介護保険法の改訂を真摯に受け止め「地域の一員として生活できる介護支援」を追加した理念は、ケアの方針の「心のケア」実践に向け、利用者さん最優先の姿勢でケアを展開している。統括責任者は職員の為に社会保険に加入し、また職員に資格へのチャレンジを勧め、資格手当も出すようにしている。職員もケアの為に自らの特技を生かしつつ、利用者さんと一緒に楽しんでおり、生き生きしたユニットが形成されている。また、聖路加病院・日野原先生の薫陶を得た音楽療法の先生が6年間継続して利用者さんをケアしてくれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>この1年間は地域との密着に取り組んだ。入居についても、地域包括支援センター等との連携を密にし、出来る限り地域の方を優先するよう心がけた。事例で地域に認知症の重い方がいて、入所判定の賛否を無記名で取り、職員の了解と覚悟の上でその方を優先的に入所して頂き、ケアを重ねたところその方が落ち着きを取り戻した。入居時の関係者から良い結果が地域に伝わり、グループホームの良さを認識して頂けた。こう言う地道な活動を通じて地域との密着は順次深まっていると実感している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>① 管理者はじめ各職員が自己評価を行いその結果を持ち寄ったミーティングを経てホームとしての自己評価を作成した。職員は自分の希望・目的をしっかりとっており、進める上で「信頼感」「やさしさ」でのベクトルは合っており、それに個人のアイデアを加味したケアが進められる体制にあるので、これを継続して改善や新たな取組みに発展して行けると考えている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ここは運営推進会議以前より自治会との繋がりが深く、イベント時などに自治会のテントを借りられるような良い関係にある。メンバーは自治会長、近所代表として大家さん、ご家族3名(1人退所したので現在は2名)、ホーム関係者であり、それにオブザーバーとして地域包括支援センターの方が参加している。テーマの中で防災の協力体制、ボランティアの募集・古布提供の呼びかけポスターの協力の話が出るなど具体的な建設的な会となっている。年間計画のイベントに併せて実施することになっている。ホームを地域の人の趣味の発表の場にしたらどうかとの意見も出ている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>青葉区時代より強固な家族会があり、年間計画を立て、日程の了解を得て家族会を実施しているので参加の協力が得られている。(遠隔地在住の方以外は全員出席が通例である。)家族会がこのホームのバックボーンであり、日頃の密な連絡と併せてご家族との行き違いは無い。ご家族には故郷訪問にご協力頂いており、ご家族と一緒に墓参り、お友達との交流などの外出を楽しんで頂くようにしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会の定例役員会に参加して、隣に建設予定の2番目のグループホームの説明をさせて頂き賛同を得ることが出来た。自治会との日頃のお付き合いの賜と感謝している。この折に知的障害者施設の方と知り合い、お付き合いに発展出来そうである。自治会とはテント、机等を貸してくれる親密な関係や災害時の備蓄品活用申し出、地域と一体になって実施した防災訓練など自治会、ご近所との協力体制は良い。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の一つに「地域の一員として生活できる介護支援」を掲げ、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えている。継続して取り組んで行くことにしている。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 尊厳を尊重した介護支援 ・ 認知症があっても普通に生活できる介護支援 ・ 息遣い、呼吸に合わせ、ゆったりとした介護支援 ・ 残存能力を引き出し、ゆるやかに保持する介護支援 ・ 家族への介護支援と相談支援 ・ 地域の一員として生活できる介護支援 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">法人の理念</div>
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の各階に法人の理念を掲示し、管理者と職員は理念を印刷したカードを絶えず身につけている。管理者は日常的に職員と共に振り返りをし、理念の実践に取り組んでいる。		今後も継続して取り組んで行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今井町自治会主催の行事には積極的に参加し、銀の鈴主催の行事には自治会と近隣の皆様をご招待している。避難訓練、消火訓練は自治会と近隣に協力を依頼し実施している。		自治会より盆踊り、敬老会はご招待を受ける。当ホーム納涼祭にはご招待をしている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を管理者、職員全員で行い、外部評価を実施する事の意義を理解している。外部評価を機会に、介護実践と理論を重ね合わせ、日々の振り返りを行うことで、介護の質の向上に活かしている。		今後も継続して取り組んで行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年より継続して運営推進会議を実施し、第6回運営推進会議を8月10日に実施した。地域の代表や家族の代表の意見や希望をサービス向上に活かしている。	○	ボランティア募集や、古布(清拭用)の提供を地域に呼びかけてはどうかとの意見を取入れ、薬局にポスターを貼らせてもらい、実際に近隣の方から古布の提供があった。また当ホームを趣味の発表の場に提供してはどうかとの意見で、地域に呼びかけている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の福祉局や、市の高齢福祉局に行き来する機会をつくり行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。自立支援、介護認定、保護担当係など関係機関を定期的に訪問している。		今後も継続して取り組んで行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等への報告は日常的に実施している。また、行事の際は、報告の場としている。電話、ファックス、メールなどで個々の家族に合わせ報告している。		今後も継続して取り組んで行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情のホーム内窓口を作り、いつでも受け付けている。また、外部の苦情受付窓口の存在を玄関に貼っている。苦情等あったときは、記録をし運営に反映させている。職員は、日々ご利用者からの不満、苦情を傾聴し素早く対応しており、また、管理者への報告を徹底している。		今後も継続して取り組んで行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の職場への根付きに努力している。退職の場合は、管理者や他の職員がフォローしてダメージを防ぐ配慮をしている。		今後も継続していく。今年度はまだ退職者なし。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度当初に年間の研修計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保をし、働きながら学べる機会を提供している。右の実績は素晴らしい。今後も継続して取り組んで行く。		看護学校在籍者1名、栄養専門学校在籍者1名、社会福祉士(通信講座)在籍2名、介護支援専門員国家試験申込者3名、介護福祉士国家試験申込者3名。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	青葉区での活動を加え8年間の実績を持って、同業者と交流の機会を得て、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。横浜市高齢者グループホーム協議会で実施する交換研修に参加している。		今後も継続して取り組んで行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際の事前面接やアセスメントを重要視し、ご本人やご家族の状況を把握する事で、徐々に馴染めるように工夫している。体験入居制度もある。事前面接の際に希望されれば、お茶や食事を提供し、ご利用者様と一緒にの雰囲気を体験して頂いている。		今後も継続して取り組んで行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者の持てる力を発揮できるように共同作業をする中で、人生の先輩としてご利用者の生活の知恵や、生き方を学ばせていただく事で、支えあう関係を築いている。今後も継続して取り組んで行く。		買い物、台所での食事作り、後片付け、洗濯、掃除など、ご利用者の持てる力を発揮し、役割を持ち果たしていただく中で、喜怒哀楽を共にしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でのご利用者の希望や意向の把握に努めている。実現が困難な場合は、介護計画の立案時に、ご利用者、ご家族、医療関係者、管理者、職員、必要なら保護担当者も含め、意向に沿えるよう検討している。		1人で散歩に行く、一人で買物に行く、寝酒、鍼灸師の往診、外泊、ご家族や友人との外食をされるetc。。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成に当たっては、ご利用者、ご家族、関係者と話し合い、管理者や職員による月一回のケアプラン会議では、個別ケアを重視し、介護計画を作成している。		ご利用者、ご家族、関係者と話し合い、アセスメント、介護計画、実行、評価を繰り返し、見直すことでそれぞれの意見を反映させている。今後も継続して取り組んで行く
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は3ヶ月を期限として見直しをしているが、心身に緊急な変化があり、介護計画の見直しが必要とされる時は、そのつどご利用者、家族、関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		心身に緊急な変化がある場合には、すぐに介護計画の見直しのためのケアプラン会議を実施し、現状に即した介護計画を作成しており、今後も継続して取り組んで行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者のご家族の状況を把握し、状況の変化が生じた場合の要望に応じて柔軟な支援をしている。例えば、ご利用者のご家族の要望により、治療を要さない終末期の看取りを、医療連携体制を取る事で医療関係者の協力と指示を得て実施している。		今後も継続して取り組んで行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者のご家族の希望により、馴染みの受診先での医療を受けたり、内科一般、整形外科医、歯科医の往診により適切な医療を受けられるように支援している。定期受診により投薬を受けたり、定期的な検査により健康状態の把握ができています。かつ、それらの医療機関と事業所の信頼関係は築かれています。		今後も継続して取り組んで行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関わる指針(重度化と終末期)により、ご利用者様のご家族の希望を伺い、書面を提出してもらっており、医療関係者や職員全員で方針を共有している。例えば宗教上の理由により輸血を拒否されるご利用者様からは、その旨を記載した書類を預かり、情報を共有している。		今後も継続して取り組んで行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常にご利用者様の人格を尊重し、呼称は様付けでお呼びしている。敬語を使用し、尊厳を守っている。記録等個人情報の取り扱いには十分に配慮している。個人情報等、書類の保管は事務所にて行い、事務所が不在になるときは、必ず施錠している。		今後も継続して取り組んで行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合による業務を優先することなく、食事の時間や、休息、入浴、散歩など、個々のペースに合わせて、その日をどのように過ごしたいか、希望に添った日常の支援をしている。起床、入浴、散歩、就寝など、時間の決まりは無く、ご利用者のペースに合わせている。		今後も継続して取り組んで行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は、職員とご利用者が一緒に行き、旬の食材や、嗜好品を購入し、食事が楽しみなものになるように支援している。ご利用者と職員と一緒に食事作りや片づけをし、持てる力を活かしている。ご利用者の誕生日には、ご本人から希望を聞いて皆様と職員と一緒に外食する。行事の時にも、職員とご利用者が相談をして、季節感のある献立を工夫し提供している。		今後も継続して取り組んで行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者に入浴の希望時間を確認する。夏場はシャワーだけか、湯船に入るかの希望を個々に聞いている。季節により、菖蒲湯、ゆず湯などをし、冬場は入浴剤を入れるなど、入浴を楽しめるように支援している。半身浴で好きな時間入浴されるご利用者もおられる。		今後も継続して取り組んで行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生きる支えである宗教の自由を尊重している。レクリエーションによる外出、行事でのご家族との触れ合い、馴染みの人との面会、共同生活での役割を果たせるよう支援している。右記を今後も継続して取り組んで行く。		週3回の教会での勉強会、お盆彼岸などのお寺参り、庭の手入れ、耕作、野菜の収穫、動物介在介護(抱く、散歩)、音楽療法など。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に添って自由に散歩に出られる支援をしている。ホームの犬を連れて一人で小一時間散歩に出られる方もいる。		今後も継続して取り組んで行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかける事の弊害は理解しているが、家族会での話し合いの結果、家族会の希望により、事故、生命の擁護、防犯の点から、日中玄関に施錠している。ただし、いつでも自由に出入りできるよう支援している。		玄関は電気錠により施錠しているが、インターフォンのスイッチで、いつでも解除でき、自由に出入りできる。今後も家族会と相談しながら対応して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会と近隣の人々の協力により、ご利用者と共に避難訓練と、消火訓練を行った。また食料と水を備蓄している。職員がご利用者を背負って避難する訓練や、二人でシーツを肩に掛けご利用者を避難させる方法などを身につける訓練を実施した。		今後も継続して取り組んで行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を作るときは食材の組み合わせにより栄養のバランスを考え、個々の食べれる量を把握し、水分は一日を通して必要量を確保できるよう支援をしている。カロリー制限や疾病のあるご利用者は、医師や看護師の指示により、食事を提供している。食事の摂取量や水分の摂取量の正確な記録を行っている。		今後も継続して取り組んで行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は絶えず清潔を心がけ、毎日の掃除を徹底している。業務上生じる不快な音は極力排除する心がけをしている。日差しが強いときは心地よく過ごせるよう工夫を取り入れている。右記を今後も継続して取り組んで行く。		夏はリビングや廊下に簾をかけ、強い日差しを防ぐと共に夏の風物を堪能している。季節の切花、植木、観賞植物を常に飾っている。また、正月飾り、雛人形、節句人形、お月見のお供えなど、季節の風習を取り入れ季節感を味わっている。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご利用様が家庭で使い慣れた物や、思い出のある物を持参していただき、居室で心地よく過ごせる工夫をしている。仏壇、タンス、鏡台、時計、ベッド、家族の写真など、馴染みの物を持参いただいている。		今後も継続して取り組んで行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム銀の鈴
(ユニット名)	こもればの郷
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市保土ヶ谷区今井町880番地
記入者名 (管理者)	中島 友美
記入日	平成 20年 8月 28日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の一つに「地域の一員として生活できる介護支援」を掲げ、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えている。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尊厳を尊重した介護支援 ・ 認知症があっても普通に生活できる介護支援 ・ 息遣い、呼吸に合わせ、ゆったりとした介護支援 ・ 残存能力を引き出し、ゆるやかに保持する介護支援 ・ 家族への介護支援と相談支援 ・ 地域の一員として生活できる介護支援 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; float: right;">法人の理念</div>
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日常的に職員と共に振り返りをし、理念の実践に取り組んでいる。	○	ホーム内の各階に法人の理念を掲示し、管理者と職員は理念を印刷したカードを絶えず身につけている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	年間の行事や、お楽しみ会を年度当初に計画し(年6回)家族や地域の人々に参加を呼びかけ、ご利用者の暮らしを理解してもらえる機会を提供し、取り組んでいる。	○	今井町自治会には特別会員として参加している。近隣の皆様とは日頃から挨拶を交わしている。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所との付き合いを大切にし、ボランティアをいただいている。	○	隣近所の人が畑で作っている季節の花や野菜を頂いたり、ボランティアで食事作りに参加していただいている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今井町自治会主催の行事には積極的に参加し、銀の鈴主催の行事には自治会と近隣の皆様をご招待している。避難訓練、消火訓練は自治会と近隣に協力を依頼し実施している。	○	自治会より盆踊り、敬老会にご招待を受ける。当ホーム納涼祭にはご招待をしている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	銀の鈴地域内のゴミ集積場所を近隣の皆様に使っていただき、ゴミを収集された後の片付けは、毎回ご利用者様と共に行っている。	○	敷地内の掃除、落ち葉掃き、雪かきなどご利用者様と共に行い、敷地内を通る近隣住民の環境整備に役立っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を管理者、職員全員で行い、外部評価を実施する事の意義を理解している。	○	外部評価を機会に、介護実践と理論を重ね合わせ、日々の振り返りを行うことで、介護の質の向上に活かす。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年より継続して運営推進会議を実施し、第6回運営推進会議を8月10日に実施した。地域の代表や家族の代表の意見や希望をサービス向上に活かしている。	○	ボランティア募集や、古布(清拭用)の提供を地域に呼びかけてはどうかとの意見を取入れ、薬局にポスターを貼らせてもらい、実際に近隣の方から古布の提供があった。また当ホームを趣味の発表の場に提供してはどうかとの意見で、地域に呼びかけている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の福祉局や、市の高齢福祉局に行き来する機会をつくり行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	自立支援、介護認定、保護担当係など関係機関を定期的に訪問している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会や、地域ケアプラザ包括センターを訪問し、冊子、パンフレットの提供をうけたり、主任ケアマネさんにアドバイスをいただき、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学んでいる。	○	成年後見人制度を活用されているご利用者が複数おられる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、高齢者虐待とは具体的にどのような事を言うのかを学び、防止に努めている。	○	ホーム内に虐待防止についてのポスターを貼っている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけてご利用者様や家族と面会し、不安や疑問を訪ね、十分に説明を行い理解納得を図っている。	○	契約を結んだり、解約をする時のみに限らず、いつでも訪問や、電話での相談に十分な時間を割いている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情のホーム内窓口を作り、いつでも受け付けている。また、外部の苦情受付窓口の存在を玄関に貼っている。苦情等あったときは、記録をし運営に反映させている。	○	職員は、日々ご利用者様からの不満、苦情を傾聴し素早く対応しており、また、管理者への報告を徹底している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等への報告は日常的に実施している。また、行事の際は、報告の場としている。	○	電話、ファックス、メールなどで個々の家族に合わせ報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情のホーム内窓口を作り、いつでも受け付けている。また、外部の苦情受付窓口の存在を玄関に貼っている。苦情等あったときは、記録をし運営に反映させている。	○	職員は、日々ご利用者様からの不満、苦情を傾聴し素早く対応しており、また、管理者への報告を徹底している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングを実施する中で、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	○	毎月1回のミーティング以外にも管理者は常時運営に関する職員の相談、意見、提案を受けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間帯に職員を確保するために、休日出勤や時間外勤務を依頼することもあり、職員との話し合いや勤務の調整に努めている。	○	管理者、及び事務(介護職員兼務)は、いつでも対応できるように待機し、オンコールシステムを取っている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の職場への根付きに努力している。退職の場合は、管理者や他の職員がフォローしてダメージを防ぐ配慮をしている。	○	今後も継続していく。今年度はまだ退職者なし。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

5. 人材の育成と支援

○職員を育てる取り組み				
-------------	--	--	--	--

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年度当初に年間の研修計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保をし、働きながら学べる機会を提供している。</p>	○	<p>有護子儀仕籍台1名、木養専門子儀仕籍台1名、社会福祉士(通信講座)在籍2名、介護支援専門員国家試験申込者3名、介護福祉士国家試験申込者3名。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>青葉区での活動を加え8年間の実績を持って、同業者と交流の機会を得て、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	○	<p>横浜市高齢者グループホーム協議会で実施する交換研修に参加している。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ホーム内においては休憩室を確保し、一人で休憩できる場所を提供し、ストレスを軽減する為の工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	○	<p>休憩室にコーヒー抽出機、テレビ、足マッサージ器、エアコンを備えている。暑気払い、忘年会、食事会を行っている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務年数の経過により、資格試験への挑戦、研修参加など職員個々の努力や実績に手当を提供し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	○	<p>准看護師1名、介護支援専門員5名、介護福祉士11名、認知症ケア専門士2名、社会福祉主事任用1名が当ホームで資格を取得した。</p>

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居相談では、本人に事前面接をし、困っている事、不安な事、求めている事等を良く聞く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	○	<p>今後も継続していく</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族による入居相談のとき、何度でも相談を受け十分な時間をかけて困っている事、不安な事、求めている事などを良く聞く機会を作り受け止める努力をしている。</p>	○	<p>今後も継続していく</p>
項目		<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	(○印)	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>例えば至急にグループホームへの入居を希望された場合、当ホームが満床の時は交流のあるグループホームを紹介する配慮をしている。</p>	○	<p>今後も継続していく</p>

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際の事前面接やアセスメントを重要視し、ご本人やご家族の状況を把握する事で、徐々に馴染めるように工夫している。体験入居制度もある。	○	事前面接の際に希望されれば、お茶や食事を提供し、ご利用者様と一緒に雰囲気を体験していただく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者様の持てる力を発揮できるように共同作業をする中で、人生の先輩としてご利用者様の生活の知恵や、生き方を学ばせていただく事で、支えあう関係を築いている。	○	買い物、台所での食事作り、後片付け、洗濯、掃除など、ご利用者の持てる力を発揮し、役割を持ち果たしていただく中で、喜怒哀楽を共にしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	アセスメントや介護計画を作成する時や、行事を通して喜怒哀楽を共にしてご利用者様を共に支えあう関係を築いている。	○	今後も継続していく
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	しっかりと信頼関係が築けている場合は、その信頼を続けていけるよう努力する。また、何らかの事情で信頼が築けていない場合は、時間と距離を置き、管理者や職員がご利用者様の代弁をすることで、家族との信頼を取り戻せる配慮をしている。	○	今後も継続していく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との面会外出は自由で、いつでも当ホームに訪問できる支援をしている。故郷訪問をされたり、法事やお盆彼岸にお寺参りができるように支援している。	○	今後も継続していく
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同作業やレクリエーション、週一回の音楽療法などを一緒に行う中でご利用者様同士がいたわり合い、支え合っている。	○	持てる力を発揮し、特に台所仕事はそれぞれに役割を持っていただき、共同作業を成し遂げる事ができている。職員は、その中に入りご利用者同士が、上手くいくように心配りをしている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	すでに退所されたご家族より、時候の手紙や電話、心遣いを頂く事がたびたびある。	○	すでにご利用者様が亡くなり退所に至っても、家族会の役員を続けたいとの申し出があったり、行事に参加し家族同士の交流を深めている。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でのご利用者様の希望や意向の把握に努めている。実現が困難な場合は、介護計画の立案時に、ご利用者、ご家族、医療関係者、管理者、職員、必要なら保護担当者も含め、意向に沿えるよう検討する。	○	1人で散歩に行く、一人で買物に行く、寝酒、鍼灸師の往診、外泊、ご家族や友人との外食をされる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを入居時のアセスメントにより把握し、馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	○	今後も継続する
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護計画書を定期的、または緊急時に必要に応じて作成し、暮らしの現状を総合的に把握するように努めている。	○	通常個人カルテの記録の他に、焦点になる必要情報を抽出し、毎日それを記録する事により、一人一人の暮らし方や、心身状態、持てる力を具体的に把握するよう努めている。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成に当たっては、ご利用者様、ご家族、関係者と話し合い、管理者や職員による月一回のケアプラン会議では、個別ケアを重視し、介護計画を作成している。	○	ご利用者様、ご家族、関係者と話し合い、アセスメント、介護計画、実行、評価を繰り返し、見直すことでそれぞれの意見を反映させている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は3ヶ月を期限として見直しをしているが、心身に緊急な変化があり、介護計画の見直しが必要とされる時は、そのつどご利用者様、家族、関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。	○	心身に緊急な変化がある場合には、すぐに介護計画の見直しのためのケアプラン会議を実施し、現状に即した介護計画を作成する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテを日勤、夜勤に分けて記録し、詳細に記録が必要な時は、個人カルテ2号様式に記録している。かつ、申し送りノートや管理者からの申し送りにより、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	特に心身の変化が顕著と認められる場合は、焦点となる情報(バイタルチェック、水分食事排泄チェックなど)を、毎日記録している。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者様とご家族の状況を把握し、状況の変化が生じた場合の要望に応じて柔軟な支援をしている。	○ 例えば、ご利用者様とご家族の要望により、治療を要さない終末期の看取りを、医療連携体制を取る事で医療関係者の協力と指示を得て実施している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各機関の協力をいただき、本人の意向や必要性に応じて支援している。	○ ボランティアによる散歩や料理、駐在所との連携、消防署の協力を得た避難訓練と消火訓練の実施、和太鼓、三味線、ギター演奏会、民生委員の運営推進会議への参加、社会福祉協議会からの車椅子の貸付など。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご利用者様とご家族が、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、有料老人ホーム、療養型病院などの利用を希望される場合、地域の他のケアマネジャーや、サービス事業者と話し合い、サービスを利用するための支援をしている。	○ 今後も継続する
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	心身や、財産の権利擁護が必要な場合があったら、地域包括支援センターと協働する。	○ 成年後見人制度を活用されているご利用者が複数おられる。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様とご家族の希望により、馴染みの受診先での医療を受けたり、内科一般、整形外科医、歯科医の往診により適切な医療を受けられるように支援している。	○ 定期受診により投薬を受けたり、定期的な検査により健康状態の把握ができています。かつ、それらの医療機関と事業所の信頼関係は築かれています。
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医(医学博士)は厚生労働省の定める「かかりつけ医認知症対応力向上研修」を受講し、いつでもご利用者様の認知症状に関する相談ができ、かつ、診断、治療、指示の支援がある。	○ 認知症状などの悪化と思われる場合や、行動障害が現れたとき、かかりつけ医に相談できる。
	○看護職との協働		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	重度化に関わる指針(重度化と終末期)により、週一回訪問の看護師と契約をし、ご利用者様の日常の健康管理や医療活用の支援を受けている。	○	看護師は必要に応じて点滴、吸引、床ずれの処置、浣腸など医療行為をする。なお、管理者は准看護師でご利用者様の日常の健康を把握している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は、こまめに面会し不安や不穏の無いように努めている。病院関係者とは十分に情報交換し、できるだけ早期に退院できるよう連携している。	○	入院中に食事の介助をするために職員が通院したり、リハビリの様子を観察しに行き、退院後はホームでの生活に即対応できるよう配慮している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関わる指針(重度化と終末期)により、ご利用者様とご家族の希望を伺い、書面を提出してもらっており、医療関係者や職員全員で方針を共有している。	○	例えば宗教上の理由により輸血を拒否されるご利用者様からは、その旨を記載した書類を預かり、情報を共有している。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力医療機関との間に、ご利用者様が重度化、看取りの必要が生じた場合、事業所の出来ること、出来ない事を見極め、医療関係者と職員が協力し、チームとしての支援に取り組んでいる。	○	実際に、重度化、終末期を迎えたご利用者様を、ご利用者様とご家族の希望により、医療関係者と職員がチームとして協力し、複数のご利用者様を看取らせていただいた。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設などへ入居される場合は、家族及び本人に関わるケア関係者間と十分な話し合いや情報提供を行い、ダメージを防ぐことに努めている	○	サマリーを提出したり、かかりつけ医から医療情報提供書や健康診断の結果などの提供を受け、提出している。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常にご利用者の人格を尊重し、呼称は様付けでお呼びしている。敬語を使用し、尊厳を守っている。記録等個人情報の取り扱いには十分に配慮している。	○	個人情報等、書類の保管は事務所にて行い、事務所が不在になるときは、必ず施錠している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者の希望の表出ができる人間関係を築き、傾聴、共感を大切にし、個々のご利用者様に合わせた説明を行い、自己決定ができ、納得しながら暮らせるように支援をしている。	○	今後も継続する
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合による業務を優先することなく、食事の時間や、休息、入浴、散歩など、個々のペースに合わせて、その日をどのように過ごしたいか、希望に添った日常の支援をしている。	○	起床、入浴、散歩、就寝など、時間の決まりは無く、ご利用者のペースに合わせている。

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご利用者の好みに合った服を着ていただく。月1回の理容師の訪問があるが、ご利用者の馴染みの美容室へも行ける支援をしている。	○	個々の希望を聞き、訪問理容師による毛染め、パーマにも対応している。毎朝の整容、髭剃り、爪切りを実施している。また、希望者にはマニキュアもしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は、職員とご利用者が一緒に行い、旬の食材や、嗜好品を購入し、食事が楽しみなものになるように支援している。ご利用者と職員が一緒に食事作りや片づけをし、持てる力を活かしている。	○	ご利用者の誕生日には、ご本人から希望を聞いて皆様と職員と一緒に外食する。行事の時にも、職員とご利用者が相談をして、季節感のある献立を工夫し提供している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	寝酒を希望されるご利用者様から梅酒を預かり、就寝前に提供している。スポーツ飲料や、馴染みのあるおやつを提供している。	○	裏山でヨモギを摘み手作り大福を作る。赤しそジュースや梅ジュースを作る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	居室にトイレを設置している事で、特に夜間の排泄は、間に合わない事の失敗が防止できている。気兼ねなく気持ちよく居室での排泄ができる。	○	個々の排泄状況、パターンを把握し、定期的にトイレ介助に努める。
	○入浴を楽しむことができる支援		季節により 草蓆湯 ゆず湯などを 冬場は入浴剤	

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者様に入浴の希望時間を確認する。夏場はシャワーだけか、湯船に入るかの希望を個々に聞いている。	○	手印により、自備物、ツリ物はこなし、タオルは八折形を入れるなど、入浴を楽しめるように支援している。半身浴で好きな時間入浴されるご利用者様もおられる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の休息ペースをつかみ、日中希望があれば昼寝をしていただく。就寝時間は特に決まっておらず、体調に合わせて希望の時間に寝ていただく。	○	気持ちよく休息できるように寝具を清潔に保ち、ベッド周りの環境を整えている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生きる支えである宗教の自由を尊重している。レクリエーションによる外出、行事でのご家族との触れ合い、馴染みの人との面会、共同生活での役割を果たせるよう支援している。	○	週3回の教会での勉強会、お盆彼岸などのお寺参り、庭の手入れ、耕作、野菜の収穫、動物介在介護(抱く、散歩)、音楽療法など。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一ヶ月に定額の小遣いを持ち、自己管理をされ、買い物や美容室に行かれるよう支援している。	○	クロスワードパズルの本、梅酒をご自分で購入される。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に添って自由に散歩に出られる支援をしている。	○	ホームの犬を連れて一人で小一時間散歩に出られる方もいる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年数回の行事や、誕生会などで行ってみたい場所の希望を聞き、他のご利用者様、ご家族、職員、ボランティアと共に出かけられる機会を作り支援をしている。	○	屋形船でのお花見、ディズニーランド、ポリショイサーカス、菖蒲園、バラ園、藤棚、チューリップ畑、すし屋、オープンカフェ、ファミレス、イタリア料理店、ハンドベルコンサート、童謡コンサートなど。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアーに一台、ご家族様にのみ番号を開示している電話を設置し、いつでも掛けていただける。また、ご利用者様の申し出があったら、自由に使用していただけるように支援している。手紙のやり取りも自由にできるよう支援している。	○	ご自分で近くのポストに手紙を投函されに行くご利用者様もおられる。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会、外出、外泊に制限は設けていない。居室に泊まる事も可能である。	○	ご家族、知人、友人など馴染みの人の面会は多々ある。お茶を居室にお持ちし、ご希望により食事も提供している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義(厚生労働省告示第129号)をホーム内数箇所に掲示し、ホーム内研修により運営者及び全ての職員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	今後も継続する
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかける事の弊害は理解しているが、家族会での話し合いの結果、家族会の希望により、事故、生命の擁護、防犯の点から、日中玄関に施錠している。ただし、いつでも自由に入出りできるよう支援している。	○	玄関は電気錠により施錠しているが、インターフォンのスイッチで、いつでも解除でき、自由に入出りできる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を問わずプライバシーに配慮しつつ、利用者の様子や所在を把握し、安全に配慮している。	○	日中リビングにおられるご利用者様の見守りにより所在を確認している。また、居室におられるご利用者様は所在や様子確認で声掛けを行う。夜間は、巡回をして所在や様子を確認している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食行為のあるご利用者様や、危険物を認識できないご利用者様など、個々の状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。	○	食器洗いスポンジが黄色だと、カステラと勘違いして異食しようとした事実があるので、黄色を避け緑色やピンク色のスポンジを購入している。洗剤類は安全ロックのついた棚に保管している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎年、管理者と職員が緊急事態と事故防止のホーム内研修会を実施し、ご利用者様の個々の状態に沿った知識と技術を学んでいる。	○	投薬の際は、薬包の記名をご利用者様と共に確認する。窒息は、前傾の姿勢にし食材の性状と量に配慮し防止に努める。徘徊の顕著なご利用者様は外出時には手と目を離すことなく対応する。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年、全ての職員が年度当初に急変や事故発生時の備えになるレジュメにより、ホーム内研修と訓練を行っている。	○	研修と訓練は、レジュメに従いマンツーマンでロールプレイを行っている。
○災害対策				

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会と近隣の人々の協力により、ご利用者さまと共に避難訓練と、消火訓練を行った。また食料と水を備蓄している。	○	職員がご利用者様を背負って避難する訓練や、二人でシーツを肩に掛けご利用者様を避難させる方法などを身につける訓練を実施した。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについては介護計画に組み入れ、ご家族に十分に説明し、話し合いをしている。	○	一人で散歩に出られるご利用者様には、安全な道を歩いていただけるよう本人と一緒に経路を確認する。一人で入浴されるご利用者様には、プライバシーに配慮しながら、様子を確認させていただく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	小さな異変を見逃さず、平素より観察を怠らない。異変に気づいたときには、ご利用者様の状態を確認し、速やかに管理者に報告し指示を得る。	○	意識レベル、バイタルサインチェック、顔色、爪の色、呼吸状態、サチュレーションを確実に確認し、記録に残す。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの効能書きをファイルし、薬の目的、副作用、用法、用量について十分に理解する。	○	薬は薬局より服用ごとに1包化され届くため、効能書きと実物の薬を確認し把握する。症状の変化に伴い服薬内容が変更したときは、申し送りを確実にを行い、その後の様子も観察記録する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事や水分摂取、運動が便秘の原因であること、また便秘の及ぼす影響を理解し、予防と対応に取り組んでいる。	○	食事には食物繊維を多く含むものを提供したり、水分の補給の為に茶、スポーツドリンクを飲んでいただき、腸の働きをよくするマッサージ、体操、散歩を促しながら、個々の排便パターンを把握する。必要に応じて医師の指示で便秘薬を服用する。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週一回の訪問歯科医と歯科衛生士による口腔ケアを実施している。また、毎食後は必ず歯磨きをし、夕食後は入れ歯の消毒を実施している。	○	毎食後の歯磨きは、磨き残しの無いように、ご利用者様ご自分で磨かれたあと、職員が確認とフォローをさせていただいている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を作るときは食材の組み合わせにより栄養のバランスを考え、個々の食べられる量を把握し、水分は一日を通して必要量を確保できるよう支援をしている。	○	カロリー制限や疾病のあるご利用者は、医師や看護師の指示により、食事を提供している。食事の摂取量や水分の摂取量の正確な記録を行っている。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年度当初に感染症予防のレジユメを作成し、管理者と全職員がホーム内研修を実施している。	○	効果的な手洗いの仕方。排泄物、血液に触れる場合の感染予防方法など
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板包丁の消毒、食器の乾燥を毎日行っている。食材は2日に一度購入し、冷蔵、冷凍により管理している。	○	泡状の液体消毒石鹼による手洗いと、手指擦り込み消毒液による消毒を常時行い食中毒の予防に努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周囲には、一年を通して季節の花や野菜を植えることで、皆様が親しみ易く安心して出入りできるよう工夫している。	○	玄関前に木製ベンチを4台設置し、散歩途中の近隣の方が休息できるよう声掛けをしている。ご利用者様が季節により夕涼みができるようにしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は絶えず清潔を心がけ、毎日の掃除を徹底している。業務上生じる不快な音は極力排除する心がけをしている。日差しが強いときは心地よく過ごせるよう工夫を取り入れている。	○	夏はリビングや廊下に簾をかけ、強い日差しを防ぐと共に夏の風物を堪能している。季節の切花、植木、観賞植物を常に飾っている。また、正月飾り、雛人形、節句人形、お月見のお供えなど、季節の風習を取り入れ季節感を味わっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間における居場所を確保して、夕涼みや、気のあったご利用者様で歌を歌ったり、ホーム犬と触れ合ったり、語り合う事ができる場所を工夫している。	○	玄関の外に木製のベンチが4台設置しており、リビングにもたたみのスペースを設け、廊下に長いすを配置し、くつろいで過ごせるスペースがある。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時のご利用者様が家庭で使い慣れた物や、思い出のある物を持参していただき、居室で心地よく過ごせる工夫をしている。	○	仏壇、タンス、鏡台、時計、ベッド、家族の写真など、馴染みの物を持参いただいている。
	○換気・空調の配慮	居室にトイレがあるため、換気空調には十分に配慮し		共用トイレなど自気の発生し、臭い対策は、排水溝や

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>居室にトイレがあるため、換気空調には工夫を配慮している。夏や冬は外気温差5℃までに配慮している。リビングには、ウィルスやカビの胞子に効果のある空気清浄機を設置して24時間稼働している。</p>	○	<p>共同トイレなど臭いの発生し易い場所は、排水パイプを洗浄剤にて徹底的に清掃している。居室は絶えず窓を開け、外気を取り入れ、換気空調の配慮をしている。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、階段、共同トイレ、居室トイレには手すりを設置している。エレベーターが設置されているが、身体機能に応じて使用している。</p>	○	<p>両側に手すりのある階段は自発的なリハビリに使用し昇降しているご利用者様がおられる。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>言葉掛けと共に視覚に訴えることで、混乱や失敗を防ぎ自立して暮らせるよう工夫している。</p>	○	<p>リビングから居室まで床にカラーテープを貼ることで、自立して居室に戻ることができる。居室ドアに大きな表札や、ご利用者様の写真を貼っている。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物の外回りや空間を利用して、季節ごとの花や野菜の苗を植え、収穫をできるようにすることで、ご利用者様の活動と楽しみの場所としている。</p>	○	<p>今年は、朝顔、向日葵、ひょうたん、ナス、トマト、大葉、三つ葉、ユリの花など。特に朝顔、ひょうたんは2階の壁までつるを伸ばしており、ご利用者様の居室からも見えのが楽しみになっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目

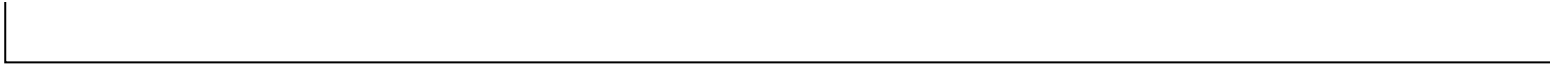
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 行事やお楽しみ会は年度当初に計画を立て、ご利用者様、ご家族様、自治会、近隣の皆様、ボランティアさん、職員一同一緒になって楽しいひと時を過ごしたり、社会的リハビリの活動を持たせ、いきいきと日常生活を送り信頼関係を築いている。
- ご家族様と、地域の皆様のご協力により、地域の一員としてその人らしく生活できる介護支援の工夫をしている。
- 管理者と職員は、実践と理論を重ね合わせるため、資格試験に挑戦したり、ホーム内外の研修に励んでいる。



自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的にかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム銀の鈴
(ユニット名)	虹の郷
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市保土ヶ谷区今井町880番地
記入者名 (管理者)	中島 友美
記入日	平成 20年 8月 28日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の一つに「地域の一員として生活できる介護支援」を掲げ、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えている。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尊厳を尊重した介護支援 ・ 認知症があっても普通に生活できる介護支援 ・ 息遣い、呼吸に合わせ、ゆったりとした介護支援 ・ 残存能力を引き出し、ゆるやかに保持する介護支援 ・ 家族への介護支援と相談支援 ・ 地域の一員として生活できる介護支援 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; float: right;">法人の理念</div>
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日常的に職員と共に振り返りをし、理念の実践に取り組んでいる。	○	ホーム内の各階に法人の理念を掲示し、管理者と職員は理念を印刷したカードを絶えず身につけている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	年間の行事や、お楽しみ会を年度当初に計画し(年6回)家族や地域の人々に参加を呼びかけ、ご利用者の暮らしを理解してもらえる機会を提供し、取り組んでいる。	○	今井町自治会には特別会員として参加している。近隣の皆様とは日頃から挨拶を交わしている。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所との付き合いを大切にし、ボランティアをいただいている。	○	隣近所の人が畑で作っている季節の花や野菜を頂いたり、ボランティアで食事作りに参加していただいている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今井町自治会主催の行事には積極的に参加し、銀の鈴主催の行事には自治会と近隣の皆様をご招待している。避難訓練、消火訓練は自治会と近隣に協力を依頼し実施している。	○	自治会より盆踊り、敬老会にご招待を受ける。当ホーム納涼祭にはご招待をしている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	銀の鈴地域内のゴミ集積場所を近隣の皆様に使っていただき、ゴミを収集された後の片付けは、毎回ご利用者様と共に行っている。	○	敷地内の掃除、落ち葉掃き、雪かきなどご利用者様と共に行い、敷地内を通る近隣住民の環境整備に役立っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を管理者、職員全員で行い、外部評価を実施する事の意義を理解している。	○	外部評価を機会に、介護実践と理論を重ね合わせ、日々の振り返りを行うことで、介護の質の向上に活かす。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年より継続して運営推進会議を実施し、第6回運営推進会議を8月10日に実施した。地域の代表や家族の代表の意見や希望をサービス向上に活かしている。	○	ボランティア募集や、古布(清拭用)の提供を地域に呼びかけてはどうかとの意見を取入れ、薬局にポスターを貼らせてもらい、実際に近隣の方から古布の提供があった。また当ホームを趣味の発表の場に提供してはどうかとの意見で、地域に呼びかけている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の福祉局や、市の高齢福祉局に行き来する機会をつくり行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	自立支援、介護認定、保護担当係など関係機関を定期的に訪問している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会や、地域ケアプラザ包括センターを訪問し、冊子、パンフレットの提供をうけたり、主任ケアマネさんにアドバイスをいただき、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学んでいる。	○	成年後見人制度を活用されているご利用者が複数おられる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、高齢者虐待とは具体的にどのような事を言うのかを学び、防止に努めている。	○	ホーム内に虐待防止についてのポスターを貼っている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけてご利用者様や家族と面会し、不安や疑問を訪ね、十分に説明を行い理解納得を図っている。	○	契約を結んだり、解約をする時のみに限らず、いつでも訪問や、電話での相談に十分な時間を割いている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情のホーム内窓口を作り、いつでも受け付けている。また、外部の苦情受付窓口の存在を玄関に貼っている。苦情等あったときは、記録をし運営に反映させている。	○	職員は、日々ご利用者様からの不満、苦情を傾聴し素早く対応しており、また、管理者への報告を徹底している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等への報告は日常的に実施している。また、行事の際は、報告の場としている。	○	電話、ファックス、メールなどで個々の家族に合わせ報告している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情のホーム内窓口を作り、いつでも受け付けている。また、外部の苦情受付窓口の存在を玄関に貼っている。苦情等あったときは、記録をし運営に反映させている。	○	職員は、日々ご利用者様からの不満、苦情を傾聴し素早く対応しており、また、管理者への報告を徹底している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングを実施する中で、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	○	毎月1回のミーティング以外にも管理者は常時運営に関する職員の相談、意見、提案を受けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間帯に職員を確保するために、休日出勤や時間外勤務を依頼することもあり、職員との話し合いや勤務の調整に努めている。	○	管理者、及び事務(介護職員兼務)は、いつでも対応できるように待機し、オンコールシステムを取っている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の職場への根付きに努力している。退職の場合は、管理者や他の職員がフォローしてダメージを防ぐ配慮をしている。	○	今後も継続していく。今年度はまだ退職者なし。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

5. 人材の育成と支援

○職員を育てる取り組み				
-------------	--	--	--	--

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際の事前面接やアセスメントを重要視し、ご本人やご家族の状況を把握する事で、徐々に馴染めるように工夫している。体験入居制度もある。	○	事前面接の際に希望されれば、お茶や食事を提供し、ご利用者様と一緒に雰囲気を体験していただく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者様の持てる力を発揮できるように共同作業をする中で、人生の先輩としてご利用者様の生活の知恵や、生き方を学ばせていただく事で、支えあう関係を築いている。	○	買い物、台所での食事作り、後片付け、洗濯、掃除など、ご利用者の持てる力を発揮し、役割を持ち果たしていただく中で、喜怒哀楽を共にしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	アセスメントや介護計画を作成する時や、行事を通して喜怒哀楽を共にしてご利用者様を共に支えあう関係を築いている。	○	今後も継続していく
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	しっかりと信頼関係が築けている場合は、その信頼を続けていけるよう努力する。また、何らかの事情で信頼が築けていない場合は、時間と距離を置き、管理者や職員がご利用者様の代弁をすることで、家族との信頼を取り戻せる配慮をしている。	○	今後も継続していく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との面会外出は自由で、いつでも当ホームに訪問できる支援をしている。故郷訪問をされたり、法事やお盆彼岸にお寺参りができるように支援している。	○	今後も継続していく
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同作業やレクリエーション、週一回の音楽療法などを一緒に行う中でご利用者様同士がいたわり合い、支え合っている。	○	持てる力を発揮し、特に台所仕事はそれぞれに役割を持っていただき、共同作業を成し遂げる事ができている。職員は、その中に入りご利用者同士が、上手くいくように心配りをしている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	すでに退所されたご家族より、時候の手紙や電話、心遣いを頂く事がたびたびある。	○	すでにご利用者様が亡くなり退所に至っても、家族会の役員を続けたいとの申し出があったり、行事に参加し家族同士の交流を深めている。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でのご利用者様の希望や意向の把握に努めている。実現が困難な場合は、介護計画の立案時に、ご利用者、ご家族、医療関係者、管理者、職員、必要なら保護担当者も含め、意向に沿えるよう検討する。	○	1人で散歩に行く、一人で買物に行く、寝酒、鍼灸師の往診、外泊、ご家族や友人との外食、季節ごとの衣類の買物、馴染みの医者への受診、美容室など
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを入居時のアセスメントにより把握し、馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	○	今後も継続する
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護計画書を定期的、または緊急時に必要に応じて作成し、暮らしの現状を総合的に把握するように努めている。	○	通常個人カルテの記録の他に、焦点になる必要情報を抽出し、毎日それを記録する事により、一人一人の暮らし方や、心身状態、持てる力を具体的に把握するよう努めている。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成に当たっては、ご利用者様、ご家族、関係者と話し合い、管理者や職員による月一回のケアプラン会議では、個別ケアを重視し、介護計画を作成している。	○	ご利用者様、ご家族、関係者と話し合い、アセスメント、介護計画、実行、評価を繰り返し、見直すことでそれぞれの意見を反映させている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は3ヶ月を期限として見直しをしているが、心身に緊急な変化があり、介護計画の見直しが必要とされる時は、そのつどご利用者様、家族、関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。	○	心身に緊急な変化がある場合には、すぐに介護計画の見直しのためのケアプラン会議を実施し、現状に即した介護計画を作成する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテを日勤、夜勤に分けて記録し、詳細に記録が必要な時は、個人カルテ2号様式に記録している。かつ、申し送りノートや管理者からの申し送りにより、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	特に心身の変化が顕著と認められる場合は、焦点となる情報(バイタルチェック、水分食事排泄チェックなど)を、毎日記録している。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者様とご家族の状況を把握し、状況の変化が生じた場合の要望に応じて柔軟な支援をしている。	○ 例えば、ご利用者様とご家族の要望により、治療を要さない終末期の看取りを、医療連携体制を取る事で医療関係者の協力と指示を得て実施している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各機関の協力をいただき、本人の意向や必要性に応じて支援している。	○ ボランティアによる散歩や料理、駐在所との連携、消防署の協力を得た避難訓練と消火訓練の実施、和太鼓、三味線、ギター演奏会、民生委員の運営推進会議への参加、社会福祉協議会からの車椅子の貸付など。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご利用者様とご家族が、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、有料老人ホーム、療養型病院などの利用を希望される場合、地域の他のケアマネジャーや、サービス事業者と話し合い、サービスを利用するための支援をしている。	○ 今後も継続する
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	心身や、財産の権利擁護が必要な場合があったら、地域包括支援センターと協働する。	○ 成年後見人制度を活用されているご利用者が複数おられる。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様とご家族の希望により、馴染みの受診先での医療を受けたり、内科一般、整形外科医、歯科医の往診により適切な医療を受けられるように支援している。	○ 定期受診により投薬を受けたり、定期的な検査により健康状態の把握ができています。かつ、それらの医療機関と事業所の信頼関係は築かれています。
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医(医学博士)は厚生労働省の定める「かかりつけ医認知症対応力向上研修」を受講し、いつでもご利用者様の認知症状に関する相談ができ、かつ、診断、治療、指示の支援がある。	○ 認知症状などの悪化と思われる場合や、行動障害が現れたとき、かかりつけ医に相談できる。
	○看護職との協働		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	重度化に関わる指針(重度化と終末期)により、週一回訪問の看護師と契約をし、ご利用者様の日常の健康管理や医療活用の支援を受けている。	○	看護師は必要に応じて点滴、吸引、床ずれの処置、浣腸など医療行為をする。なお、管理者は准看護師でご利用者様の日常の健康を把握している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は、こまめに面会し不安や不穏の無いように努めている。病院関係者とは十分に情報交換し、できるだけ早期に退院できるよう連携している。	○	入院中に食事の介助をするために職員が通院したり、リハビリの様子を観察しに行き、退院後はホームでの生活に即対応できるよう配慮している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関わる指針(重度化と終末期)により、ご利用者様とご家族の希望を伺い、書面を提出してもらっており、医療関係者や職員全員で方針を共有している。	○	この7/26に、まる2年間入居されていた方の終末期を看取らせていただいた。さらに、8/15にまる6年入居されていた方の終末期を看取らせていただいた。ご家族様から職員に感謝の言葉を多々いただいた。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力医療機関との間に、ご利用者様が重度化、看取りの必要が生じた場合、事業所の出来ること、出来ない事を見極め、医療関係者と職員が協力し、チームとしての支援に取り組んでいる。	○	実際に、重度化、終末期を迎えたご利用者様を、ご利用者様とご家族の希望により、医療関係者と職員がチームとして協力し、複数のご利用者様を看取らせていただいた。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設などへ入居される場合は、家族及び本人に関わるケア関係者間と十分な話し合いや情報提供を行い、ダメージを防ぐことに努めている	○	サマリーを提出したり、かかりつけ医から医療情報提供書や健康診断の結果などの提供を受け、提出している。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常にご利用者様の人格を尊重し、呼称は様付けでお呼びしている。敬語を使用し、尊厳を守っている。記録等個人情報の取り扱いには十分に配慮している。	○	個人情報等、書類の保管は事務所にて行い、事務所が不在になるときは、必ず施錠している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者様の希望の表出ができる人間関係を築き、傾聴、共感を大切にし、個々のご利用者様に合わせた説明を行い、自己決定ができ、納得しながら暮らせるように支援をしている。	○	今後も継続する
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合による業務を優先することなく、食事の時間や、休息、入浴、散歩など、個々のペースに合わせて、その日をどのように過ごしたいか、希望に添った日常の支援をしている。	○	起床、入浴、散歩、就寝など、時間の決まりは無く、ご利用者様のペースに合わせている。

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご利用者様の好みに合った服を着ていただく。月1回の理容師の訪問があるが、ご利用者様の馴染みの美容室へも行ける支援をしている。	○	個々の希望を聞き、訪問理容師による毛染め、パーマにも対応している。毎朝の整容、髭剃り、爪切りを実施している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は、職員とご利用者様が一緒に行い、旬の食材や、嗜好品を購入し、食事が楽しみなものになるように支援している。ご利用者様と職員が一緒に食事作りや片づけをし、持てる力を活かしている。	○	ご利用者様の誕生日には、ご本人から希望を聞いて皆様と職員と一緒に外食する。行事の時にも、職員とご利用者様が相談をして、季節感のある献立を工夫し提供している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	寝酒を希望されるご利用者様から梅酒を預かり、就寝前に提供している。スポーツ飲料や、馴染みのあるおやつを提供している。	○	裏山でヨモギを摘み手作り大福を作る。赤しそジュースや梅ジュースを作る。大学芋や、芋もち、ふかし芋など、なじみの深いオヤツを提供し、楽しんでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	居室にトイレを設置している事で、特に夜間の排泄は、間に合わない事の失敗が防止できている。気兼ねなく気持ちよく居室での排泄ができる。	○	個々の排泄状況、パターンを把握し、定期的にトイレ介助に努める。
	○入浴を楽しむことができる支援		季節により 草蓆湯 ゆづ湯などを1 冬掛け入浴剤	

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご利用者様に入浴の希望時間を確認する。夏場はシャワーだけか、湯船に入るかの希望を個々に聞いている。	○	季節により、着崩れ物、ツリ物はこなし、冬物はハゲ柄を入れるなど、入浴を楽しめるように支援している。半身浴で好きな時間入浴されるご利用者様もおられる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の休息ペースをつかみ、日中希望があれば昼寝をしていただく。就寝時間は特に決まっておらず、体調に合わせて希望の時間に寝ていただく。	○	リビングに畳を敷き、日中そこで休息されるご利用者様もおられる。気持ちよく休息できるように寝具を清潔に保ち、ベット周りの環境を整えている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生きる支えである宗教の自由を尊重している。レクリエーションによる外出、行事でのご家族との触れ合い、馴染みの人との面会、共同生活での役割を果たせるよう支援している。	○	庭の手入れ、耕作、野菜の収穫、動物介在介護(抱く、散歩)、音楽療法など。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一ヶ月に定額の小遣いを持ち、自己管理をされ、買い物や美容室に行かれるよう支援している。	○	馴染みの美容室でパーマをかけ、ご自分で支払をされる。鍼灸院の支払をされる。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に添って自由に散歩に出られる支援をしている。	○	外出して近隣の皆様と世間話をされるご利用者様もいる。。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年数回の行事や、誕生会などで行ってみたい場所の希望を聞き、他のご利用者様、ご家族、職員、ボランティアと共に出かけられる機会を作り支援をしている。	○	屋形船でのお花見、ディズニーランド、ポリショイサーカス、菖蒲園、バラ園、藤棚、チューリップ畑、すし屋、オープンカフェ、ファミレス、イタリア料理店、ハンドベルコンサート、童謡コンサートなど。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアーに一台、ご家族様にのみ番号を開示している電話を設置し、いつでも掛けていただける。また、ご利用者様の申し出があったら、自由に使用していただけるように支援している。手紙のやり取りも自由にできるように支援している。	○	居室に携帯電話をお持ちのご利用者様もおられる。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会、外出、外泊に制限は設けていない。居室に泊まる事も可能である。	○	ご家族、知人、友人など馴染みの人の面会は多々ある。お茶を居室にお持ちし、ご希望により食事も提供している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義(厚生労働省告示第129号)をホーム内数箇所に掲示し、ホーム内研修により運営者及び全ての職員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	今後も継続する
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかける事の弊害は理解しているが、家族会での話し合いの結果、家族会の希望により、事故、生命の擁護、防犯の点から、日中玄関に施錠している。ただし、いつでも自由に入出入りできるよう支援している。	○	玄関は電気錠により施錠しているが、インターフォンのスイッチで、いつでも解除でき、自由に入出入りできる。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を問わずプライバシーに配慮しつつ、利用者の様子や所在を把握し、安全に配慮している。	○	日中リビングにおられるご利用者様の見守りにより所在を確認している。また、居室におられるご利用者様は所在や様子確認で声掛けを行う。夜間は、巡回をして所在や様子を確認している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食行為のあるご利用者様や、危険物を認識できないご利用者様など、個々の状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。	○	食器洗いスポンジが黄色だと、カステラと勘違いして異食しようとした事実があるので、黄色を避け緑色やピンク色のスポンジを購入している。洗剤類は安全ロックのついた棚に保管している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎年、管理者と職員が緊急事態と事故防止のホーム内研修会を実施し、ご利用者様の個々の状態に沿った知識と技術を学んでいる。	○	投薬の際は、薬包の記名をご利用者様と共に確認する。窒息は、前傾の姿勢にし食材の性状と量に配慮し防止に努める。徘徊の顕著なご利用者様は外出時には手と目を離すことなく対応する。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年、全ての職員が年度当初に急変や事故発生時の備えになるレジュメにより、ホーム内研修と訓練を行っている。	○	研修と訓練は、レジュメに従いマンツーマンでロールプレイを行っている。
○災害対策				

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会と近隣の人々の協力により、ご利用者さまと共に避難訓練と、消火訓練を行った。また食料と水を備蓄している。	○	職員がご利用者様を背負って避難する訓練や、二人でシーツを肩に掛けご利用者様を避難させる方法などを身につける訓練を実施した。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについては介護計画に組み入れ、ご家族に十分に説明し、話し合いをしている。	○	一人で散歩に出られるご利用者様には、安全な道を歩いていただけるよう本人と一緒に経路を確認する。一人で入浴されるご利用者様には、プライバシーに配慮しながら、様子を確認させていただく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	小さな異変を見逃さず、平素より観察を怠らない。異変に気づいたときには、ご利用者様の状態を確認し、速やかに管理者に報告し指示を得る。	○	意識レベル、バイタルサインチェック、顔色、爪の色、呼吸状態、サチュレーションを確実に確認し、記録に残す。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの効能書きをファイルし、薬の目的、副作用、用法、用量について十分に理解する。	○	薬は薬局より服用ごとに1包化され届くため、効能書きと実物の薬を確認し把握する。症状の変化に伴い服薬内容が変更したときは、申し送りを確実にを行い、その後の様子も観察記録する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事や水分摂取、運動が便秘の原因であること、また便秘の及ぼす影響を理解し、予防と対応に取り組んでいる。	○	食事には食物繊維を多く含むものを提供したり、水分の補給の為に茶、スポーツドリンクを飲んでいただき、腸の働きをよくするマッサージ、体操、散歩を促しながら、個々の排便パターンを把握する。必要に応じて医師の指示で便秘薬を服用する。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週一回の訪問歯科医と歯科衛生士による口腔ケアを実施している。また、毎食後は必ず歯磨きをし、夕食後は入れ歯の消毒を実施している。	○	毎食後の歯磨きは、磨き残しの無いように、ご利用者様ご自分で磨かれたあと、職員が確認とフォローをさせていただいている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を作るときは食材の組み合わせにより栄養のバランスを考え、個々の食べれる量を把握し、水分は一日を通して必要量を確保できるよう支援をしている。	○	カロリー制限や疾病のあるご利用者は、医師や看護師の指示により、食事を提供している。食事の摂取量や水分の摂取量の正確な記録を行っている。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年度当初に感染症予防のレジユメを作成し、管理者と全職員がホーム内研修を実施している。	○	効果的な手洗いの仕方。排泄物、血液に触れる場合の感染予防方法など
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板包丁の消毒、食器の乾燥を毎日行っている。食材は2日に一度購入し、冷蔵、冷凍により管理している。	○	泡状の液体消毒石鹼による手洗いと、手指擦り込み消毒液による消毒を常時行い食中毒の予防に努めている。

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1)居心地のよい環境づくり

80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周囲には、一年を通して季節の花や野菜を植えることで、皆様が親しみ易く安心して出入りできるよう工夫している。	○	玄関前に木製ベンチを4台設置し、散歩途中の近隣の方が休息できるよう声掛けをしている。ご利用者様が季節により夕涼みができるようにしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は絶えず清潔を心がけ、毎日の掃除を徹底している。業務上生じる不快な音は極力排除する心がけをしている。日差しが強いときは心地よく過ごせるよう工夫を取り入れている。	○	夏はリビングや廊下に簾をかけ、強い日差しを防ぐと共に夏の風物を堪能している。季節の切花、植木、観賞植物を常に飾っている。また、正月飾り、雛人形、節句人形、お月見のお供えなど、季節の風習を取り入れ季節感を味わっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間における居場所を確保して、夕涼みや、気のあったご利用者様で歌を歌ったり、ホーム犬と触れ合ったり、語り合う事ができる場所を工夫している。	○	玄関の外に木製のベンチが4台設置しており、リビングにもたたみのスペースを設け、廊下に長いすを配置し、くつろいで過ごせるスペースがある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○	仏壇、タンス、鏡台、時計、ベッド、家族の写真など、馴染みの物を持参いただいている。
	○換気・空調の配慮		

居室にトイレがあるため、換気空調には十分に配慮し

共用トイレなど自気の発生し、臭い対策は、排水溝や

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>居室にトイレがあるため、換気空調には工夫に配慮している。夏や冬は外気温度差5℃までに配慮している。リビングには、ウィルスやカビの胞子に効果のある空気清浄機を設置して24時間稼働している。</p>	○	<p>共同トイレなど臭いの発生し易い場所は、排水パイプを洗剤にて徹底的に清掃している。居室は絶えず窓を開け、外気を取り入れ、換気空調の配慮をしている。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、階段、共同トイレ、居室トイレには手すりを設置している。エレベーターが設置されているが、身体機能に応じて使用している。</p>	○	<p>両側に手すりのある階段は自発的なリハビリに使用し昇降しているご利用者様がおられる。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>言葉掛けと共に視覚に訴えることで、混乱や失敗を防ぎ自立して暮せるよう工夫している。</p>	○	<p>リビングから居室まで床にカラーテープを貼ることで、自立して居室に戻ることができる。居室ドアに大きな表札や、ご利用者様の写真を貼っている。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物の外回りや空間を利用して、季節ごとの花や野菜の苗を植え、収穫をできるようにすることで、ご利用者様の活動と楽しみの場所としている。</p>	○	<p>今年は、朝顔、向日葵、ひょうたん、ナス、トマト、大葉、三つ葉、ユリの花など。特に朝顔、ひょうたんは2階の壁までつるを伸ばしており、ご利用者様の居室からも見えのが楽しみになっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

●行事やお楽しみ会は年度当初に計画を立て、ご利用者様、ご家族様、自治会、近隣の皆様、ボランティアさん、職員一同一緒になって楽しいひと時を過ごしたり、社会的リハビリの活動を持たせ、いきいきと日常生活を送り信頼関係を築いている。

●ご家族様と、地域の皆様のご協力により、地域の一員としてその人らしく生活できる介護支援の工夫をしている。

●管理者と職員は、実践と理論を重ね合わせるため、資格試験に挑戦したり、ホーム内外の研修に励んでいる。

